

和歌山県西牟婁郡上富田町

笑顔が広がる美しい里づくり



【地域の基礎データ】

人口：15,563人（令和元年12月末現在）

高齢化率：26.3%（平成31年1月1日現在）

産業：農業（ウメ・みかん）、製造業 など

【活動の基本情報】

参加学生数：2名（1回生：1名、2回生：1名）

活動期間：平成29年5月～

担当教員：大浦由美

1. 活動実施の経緯

市ノ瀬地区は富田川左岸に位置する緩やかな丘陵地で、地区内には上富田町唯一の棚田が存在する風光明媚な地域である。しかしながら農業者の高齢化が進み、耕作放棄地も一部にみられる。その一方で、非農家世帯も増加しており、いわゆる「混住化」が進んでいる地域でもある。当地区では2016年秋に地域住民による地域づくりワークショップを実施した。その場に観光学部生3名が参加したことをきっかけに、2017年から当地区の農業者を中心に結成された「一瀬里山会」の地域づくり活動を支援することになった。

2. 活動の内容と成果

この間、以下の3つの活動を継続的に支援している。今年の活動状況は次の通りである。

(1) ヒマワリと菜の花が咲きほこるまち

今年度も台風や天候不順に見舞われ、ヒマワリ等が十分に生育しなかった。休耕地の有効活用が目的であるが、耕起や草刈りに手間がかかるため、省力化が課題となっている。

(2) アサギマダラが飛翔するまち

興禅寺下の休耕地を活用したフジバカマ園において、アサギマダラの飛来に合わせて初のイベント「アサギマダラ祭り」を開催し、多くの参加者を集めた。

(3) 市ノ瀬ごませんべいづくり

「市ノ瀬ごませんべい」の品質向上に努め、今年も地区の祭りやイベントで販売した。今後は、当地の土地特性（休耕地）に合ったゴマの効率的な栽培方法の確立が課題である。

3. 活動を通じて

3年間の活動によって軌道に乗りつつある取り組みもあるものの、休耕地は増加の傾向にあり、活動自体の人手不足が課題になりつつある。今後は非農家世帯の住民にも声を掛けるなど、一瀬里山会の活動への参加者・協力者を増やす必要があるだろう。

4. 成果物など



笑顔が広がる美しい里づくり

～2019年度 上富田町市ノ瀬LIP

一瀬里山会

●市ノ瀬地区の概要と現状●

市ノ瀬地区は和歌山県西牟婁郡上富田町内の緩やかな丘陵地に位置し、富田川という清流が流れる集落です。熊野古道・中辺路街道の入口付近であることから、「口熊野」とも称される地域です。

産業としてウメやミカンなど農産物が生産されていますが、農業の担い手は年々高齢化が進んでおり、それに伴って耕作放棄地が増加する等「農地の継承」という問題を地域として抱えています。世帯別に見ても割合として非農家世帯が増加しており、農家・非農家の混住化がみられます。

●一瀬里山会と市ノ瀬LIPの成り立ち●

左に述べたような問題を抱えるなか、2016年に住民主導で地域活性化に向けたワークショップが開催されました。

結果として住民有志による地域づくり団体「一瀬里山会」が発足。また、このワークショップに観光学部生3名が参加したことから、2017年度より学部生がLIPプログラムとして市ノ瀬地区の地域づくりに加わる体制が整えられました。以後継続的に、里山会にLIPメンバーが参加する形で様々な活動を行っています。

＼里山会では、こんな活動をしています／



☆花々が咲き誇るまち☆

「花いっぱい運動」と称して、菜の花やひまわりを植栽する活動を行っています。良好な景観を形成するとともに、住民の心の豊かさにも貢献します。

今年度は植栽活動に加え、イベントの際にひまわりの種を頒布し、住民自体にもひまわりを育ててもらうという試みを行いました。頒布の際には、私達の活動を住民の方に広く知っていただくため、LIPメンバーが作成した里山会のパンフレットも添えてお渡ししました。



☆アサギマダラを呼ぼう☆

秋冬期になると日本列島から台湾・香港近辺まで移動する渡り蝶「アサギマダラ」は、美しい姿や希少性から愛好家も多い蝶です。一瀬里山会ではこれを地域資源にしようと、アサギマダラが好む花「フジバカマ」を植栽しました。

結果、前年度は想定を超える数のアサギマダラを集められたことから、今年度「アサギマダラ祭り」と銘打ったイベントを開催（※イベントの主催は別団体）。周辺地域の団体による露店や楽器演奏、自然観察指導員の方によるマーケティング教室が行われ、盛況となりました。



☆「いちのせのごま」づくり☆

休耕地・耕作放棄地活用の一環として、花卉類だけでなくゴマの栽培も行っています。収穫したゴマは地域の産品として売り出す事を目標とし、製品開発に取り組んでいます。今年度は「コスモス祭り」「アサギマダラ祭り」という2つの地域イベントで生ゴマとゴマゼンペいを販売し、価格や内容量の検討を行いました。LIPの活動としてはイベントの際のブース作成・製品販売や、ゴマゼンペいの製造などのお手伝いを行いました。

●今後の取り組みについて●

一瀬里山会では現在、「体験農園プログラム」の実施に向けて準備を進めています。体験農園とは、非農家の方が農作物のつくり方を学びながら実際に自分の手で耕作を行うシステムのこと。事前の知識や技術が要される貸し農園等とは違い、経験者でなくとも気軽に農業体験ができる手法だと注目を集めています。

構想は昨年度から立ち上がり、今年度は里山会メンバーが実際に和歌山市内の体験農園の視察を行いました。現在もLIPメンバーでナラシ作りに取り組むなど、来年度のプログラム開始を目指して活動しています。

●参加学生の声●

- ・様々な地域資源について考えさせられる活動でした。特に、地域イベントで地域の方々がお若男女問わず気軽に会話している様子を見て「繋がり」の大切さを感じました。（1回生 相川明音）
- ・今年度、何より一番印象的だったのはアサギマダラ祭りです。昨年度のアサギマダラの集まり具合を見て「これは凄い！」と思いましたが、今年度にイベント仕し住民の新しい交流の場となったことがとても感慨深いと感じました。（2回生 谷口真弘）